



今年もできました!

「いちご狩り」が毎年の恒例行事となっている児童デイですが、赤見に移転してからも継続して行うことができました。会員のお知り合いの方が偶然にも児童デイの事業所のすぐ近くに畑を所有されており、利用させて頂けることとなったのです。

去年までとは違う畑に、はじめは戸惑っていましたが、「赤いよ!」「大きいよ!」と立派に実ったいちごに子ども達は感激していました。ご厚意に甘えて、かご一杯になる程のいちごを収穫させて頂きました。

将来の姿を想像する

今回は中高生デイの子達も参加しましたが、落ち着いて黙々と収穫する姿がとても印象的でした。

農業は扱うものが直接「食」につながるので、ボルトやナットを使った作業よりも働いた成果を具体的にイメージしやすく、彼らも「やりがい」を持って働けるのではないだろうか?

成長した彼らがイキイキと働く姿を想像しつつ、貴重な機会を提供して下さった方に深く感謝した一日でした。



中高生のいちご狩りの様子。収穫したいちごはその場でいただきました!

心っれづれ

これからも・・・



「よいしょっ!」「こらしょっ!」「どっこいしょっ!」

無意識のうちに一体一日に何回言っているのやら。これを1回100円の罰金と自分で決めたのです。ところがさあたいへん。ふとんから出るとき、トイレで、お菓子の袋を開けるとき、出かけるとき、ごはんを食べるとき、etc.etc.・・・もうイヤだあ〜。これじゃサイフがもたないヨ〜。

そこで考えたのです。話したくても話せない人もいる。動きたくても動けない人もいるのに、かけ声?をかければ、話せて、動ける。これは一種の健康法ではないか。だって言ってる回数だけ動いているのですから。そう思うとなんだか元気が出てきたのです。これからもうるさいくらい動きますわよひひひこんな私ってヘン!?

古賀キミ

宿泊研修のご案内

今年も障害児との親子宿泊研修を赤見の児童デイ事業所で協力させていただきます。

- 主催 チャレンジ堂
- 日時 平成 23 年 7 月 17 日 (日) 13:00 ~ 7 月 18 日 (月) 12:00
- 場所 NPO 法人まごころ児童デイ事業所
- 会費 1,000 円/人
- 内容 アウトドアクッキング (カレー作り)

日本語おもしろい

坪内忠太著 新講社 より



◇常識はずれを「無茶」というのはなぜか?

日本人の習慣から、お客が来たらお茶を出して接待するのが常識となっている。だから、用件に気を取られ、うっかりお茶を出さないと「茶も出さない!」とその非常識を責められた。そこから常識はずれを「無茶」というようになった。

訪問介護の所要時間について



他の事業所を利用されている方の相談を受ける機会がありました。

その方の話の中で、ヘルパーの掃除のやり方が悪い、部屋を丸くしか掃除しない。掃除機のゴミは捨ててはくれない。物を壊しても黙っている。(本当にヘルパーが壊したかの真相は知らないが・・・) 相談というより、数々の苦情話を聞くようであった。

その苦情の中には他人事とは思えないこともあり、改めて事業所の質、ヘルパーの質を考えさせられ、利用者にとって介護サービスの内容を再認識する必要があると思われた。

その利用者にとって、ヘルパーのサービス時間(所要時間)というのは、作業開始から終了までを言い、エプロンをつけたり、記録をつけたりすることはケア時間とみておらず、それらに15分かかっているのでは、15分仕事をさぼっているとしか見ておられないことだった。

介護保険法でいう、訪問介護の所要時間について、サービス準備・記録・健康チェック・環境整備・相談援助、情報収集等の時間は所要時間に含まれる。「老計10号(老人保健福祉局老人福祉計画課長通知)」

訪問介護の「家事」は単なる作業ではないこと、介護にあたりその準備、後片付けや付随すべき一連の行為を含めて利用者への援助のアプローチとして重要な意味を持つことを理解していただきたいと思います。

医療用吸引器をお譲りください!

在宅での介護現場に医療的ケアが必要となっています。当会でも介護技術スキルアップの勉強会に「吸引器の取り扱い」を取り入れたいと考えています。ご家庭で不用になった「吸引器」がありましたら、お譲りください。

ミニデイだよ!



春のお出かけ

5月24日、前日まで続いていた雨が止み、快晴の中、北名古屋市にある「歴史民俗資料館」へ出かけました。

少し遠い外出だったので、みなさんも大好きなお寿司(回転寿司)を食べに行くことになり、出発する前から「何を食べよう。うどんにしようか、茶碗蒸しにしようか?」と、とても楽しそうに悩んでみえました。お店に到着し、各自注文して頂くと、「あれもおいしそう・・・これも・・・もうお腹いっぱい、でもデザートは別腹ね!」と、予想以上に食べられた方ばかりでした。いつもとは違う雰囲気食べる昼食は、みなさんずっと笑顔で話も弾んでみえました。

お腹も膨れて、「歴史民俗資料館」へ移動しました。館内に一步踏み入ると、そこには昭和の世界が広がっており、洗濯機・炊飯器など、電化製品の初期の物がたくさん置いてあり、利用者さんたちはとても懐かしい眼差しで、付添ったスタッフにいろいろと説明をして下さいました。

今は何でも便利になり、それが当たり前になってきていますが、これから夏に向け節電対策を考えると、当たり前ではいけない!と気付かされた一日でした。

